

子どもの日本語教育研究会第3回大会 パネルセッション2

「親から子へ、子から孫へ
伝わるもの、伝えられないもの」
—中国帰国者二世家庭を中心に見た複数言語
親子間の言語と歴史の「受け継ぎ」を支援する—

2018年3月3日(土) 聖心女子大学
安場 淳 (中国帰国者支援・交流センター)
八倉周子 (中国帰国者支援・交流センター)
源田 麗子 (医療法人社団幸有会 幸有会記念病院)
山崎 哲 (一橋大学大学院社会学研究科修士課程)
石井 恵理子 (東京女子大学 現代教養学部)

本日のパネル発表内容

1. 中国帰国者家庭における言語・文化・家族史の「受け継ぎ」状況
2. 帰国者二世保護者の文化的資本に関わる問題 二世による相談事例より
3. 受け継ぎ、伝える二世から
4. 親世代へのあり得べき支援とは…

→皆さんと討議していきたいところ

2

はじめに

1.1. 中国帰国者家庭の現在

- ・ 全国に10万超の「中国帰国」系家族
- ・ 三世四世の時代→「見えない」存在
- ・ 親世代…日本語OK vs 日本語困難
- ・ 三世代子育て慣行(中国系に共通)

3

1.2. 家庭教育上の困難の要因

- ・ 家庭により子により異なる「母語」
- ・ 不安定要素の多い家庭
(配偶者の家庭内地位の不安定も)
- ・ 識字上のハンデ→情報格差

→二つの次元の課題

4

情報の二つの次元

・ 一つ目の次元の課題

成績表の見方／お弁当／通訳の要請の仕方／相談先 etc

⇒「情報」として伝達可能。ネットでも取得可

・ 二つ目の次元の課題

子育ての理念・哲学、長期的視野

⇒抽象的。この現れとして、母語や家族の歴史の継承の意味 etc

5